Python/Djangoの環境構築 (チーム開発・大規模開発向け)

チームでの開発・大規模開発の特徴と懸念

- 1. タスク分担や作業期間の長期化によって、実装知識が偏る 自分の担当した機能は把握しているが、そうでない部分は内容を知らない、といったことが起こる 担当部分が変わったり、範囲が増えたときにスムーズに対応できるようにしておく必要がある (一人で開発している場合も、時間が空いたことで実装方法や対応内容を忘れることがある)
- コードスタイルの不統一 開発メンバーや、実装した時期によって、コードの書き方に違いが出てしまう ちょっとしたことでも、多くのファイルにまたがってコードを読んでいくと混乱のもとになりやすい
- 3. 実装の変更による、予期せぬ不具合の発生 プログラミングにおいて最も多いエラーのひとつは、null アクセスと未定義エラーと言われている Pythonを はじめとする動的型付け言語は、コンパイルという工程がない分これらのエラーを発見しづらい ※型を意識しなくてよい手軽さとのトレードオフであり、大規模開発ではデメリットも大きい

懸念をツールの利用と仕組みで改善する

- チーム開発・大規模開発の懸念や不安点を、開発メンバーの注意力やレビューだけで払しょくすることは簡単ではない
- そこで、コードの品質を確保するためのツールを導入し、開発フローに取り入れて仕組化する
- 開発メンバーは、アルゴリズムや業務要件の実装に集中し、生産性を高めることができる

Python/Django のチーム開発用環境構築

- 1. pyenv Python 本体のバージョン管理ツール。複数のPythonのバージョンを切り替えて利用できるようにする。
- 2. Poetry
 Python パッケージを管理し、依存関係を解決するツール。pip では機能不足のため、これを利用する。
- 3. mypy
 Python の型チェックツール。型不一致によるエラーを実行前に発見できる。開発時のコード補完表示で実装速度も向上する。
- 4. Black PEP8 のスタイルに従うためのコードフォーマッター。メンバー間のコードスタイルの違いを解消できる。
- 5. Flake8
 PEP8 のコーディングルール違反を確認するリンター。コードスタイルだけでなく、不具合の原因になりうる記述に対しても警告してくれる。

※ 自動テスト関連は別資料でまとめます

1-1. pyenvの導入 (Windows)

pyenv-win の公式ページの手順に従ってインストールを進める PowerShell を起動し、以下のコマンドを実行

Invoke-WebRequest -UseBasicParsing -Uri "https://raw.githubusercontent.com/pyenv-win/pyenv-win/master/pyenv-win/install-pyenv-win.ps1" -OutFile "./install-pyenv-win.ps1"; &"./install-pyenv-win.ps1"

Unauthorized エラーが発生する場合は、PowerShell を管理者権限で開いたPowerShellのプロンプトから以下のコマンドを実行し、上記のインストールコマンドを再実行する

Set-ExecutionPolicy - ExecutionPolicy RemoteSigned - Scope LocalMachine

pyenv コマンドを実行し、コマンドヘルプが表示されれば完了

1-2. pyenvの利用

```
#1. インストール可能なバージョンの一覧を表示
$ pyenv install --list
Available versions:
 2.1.3
 2.2.3
#...以下略
#2. バージョンを指定してインストール(3.10.x)
$ pyenv install 3.10
Downloading Python-3.10.8.tar.xz...
-> https://www.python.org/ftp/python/3.10.8/Python-3.10.8.tar.xz
Installing Python-3.10.8...
Installed Python-3.10.8 to /home/y-uchiida/.pyenv/versions/3.10.8
#3. デフォルトで動作するバージョンを設定
$ pyenv global 3.10
$ python --version
Python 3.10.8
#4. 現在のディレクトリで動作するバージョンを指定
$ pyenv local 3.10
```

2-1. Poetry の導入(1)

Poetry の公式ページの手順に従ってインストールを進める PowerShell を起動し、以下のコマンドを実行

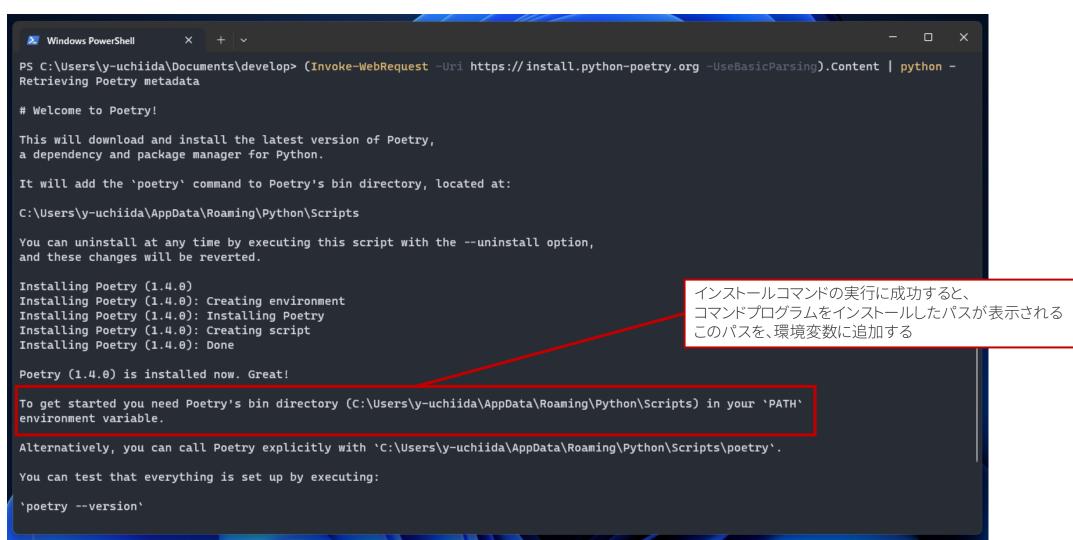
(Invoke-WebRequest -Uri https://install.python-poetry.org -UseBasicParsing).Content | py -

py コマンドが見つからないとエラーが出る場合は、代わりに以下を実行(py をpython に置き換える)

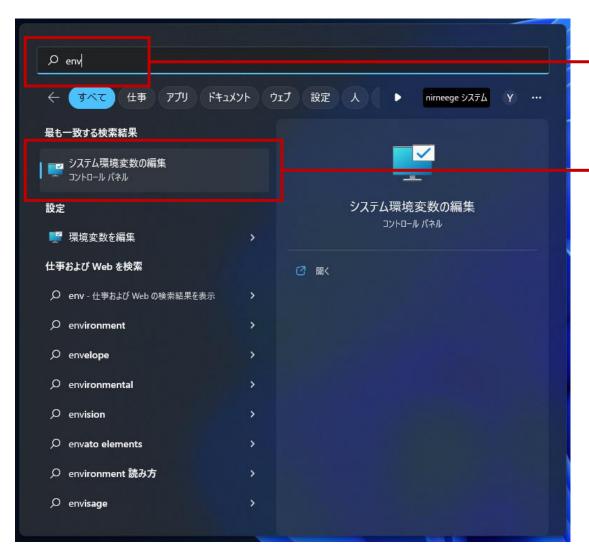
(Invoke-WebRequest -Uri https://install.python-poetry.org -UseBasicParsing).Content | python -

インストールコマンドを実行した後、Poetry の実行プログラムに対してPATHを通す環境変数の設定画面を開き、PATHを設定する

2-1. Poetry の導入(2)



2-1. Poetry の導入(3)



Windows キーを押してスタートメニューを表示する 検索欄に「env」と入力する

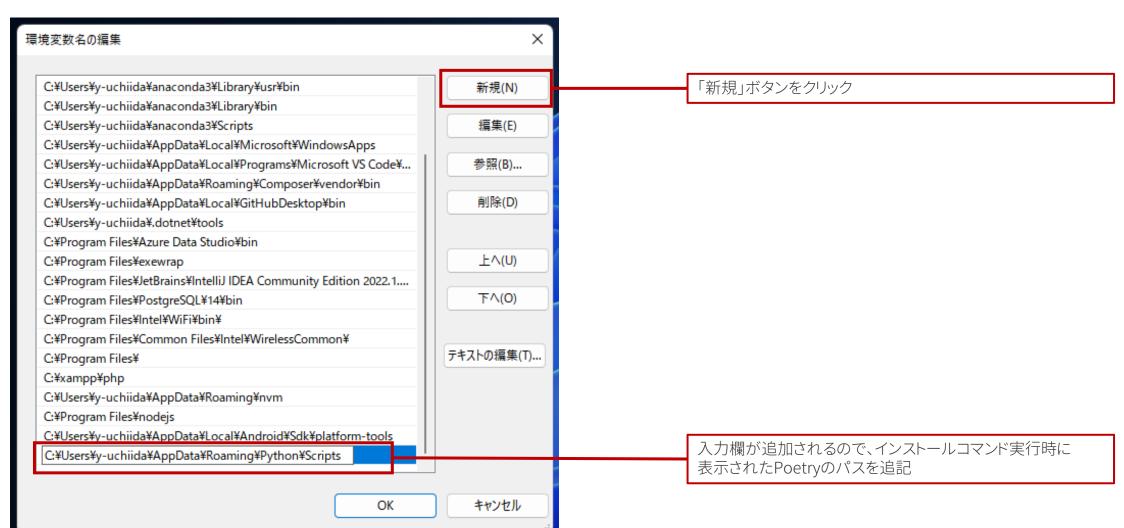
システム環境変数の編集が表示されるのでクリック

2-1. Poetry の導入(4)



システムのプロパティウィンドウの「環境変数」ボタンをクリック

2-1. Poetry の導入(5)



2-1. Poetry の導入(6)

PowerShell のウィンドウを開いて、以下のコマンドを実行する Poetry のバージョン情報が表示されれば、インストール完了

poetry --version

2-2. Poetry の利用(1)

Poetry は、Pythonアプリケーションのプロジェクトを作成できる 以下のコマンドを実行すると、poetry_new_sample というフォルダにプロジェクトが作成される

```
#新しくプロジェクト用のフォルダを作る
poetry new porty_new_sample
Created package porty new sample in porty new sample
# 作成したプロジェクトのフォルダに移動
cd porty new sample
#作成された内容を表示
ls
 ディレクトリ: C:¥porty_new_sample
Mode
           LastWriteTime
                          Length Name
       2023/03/12 22:11
                             porty new sample
       2023/03/12 22:11
                             tests
       2023/03/12 22:11
                           327 pyproject.toml
       2023/03/12 22:11
                            0 README.md
```

2-2. Poetry の利用(2)

Poetry は、Pythonアプリケーションのプロジェクトを作成できる 以下のコマンドを実行すると、poetry_new_sample というフォルダにプロジェクトが作成される

```
#新しくプロジェクト用のフォルダを作る
poetry new porty_new_sample
Created package porty new sample in porty new sample
# 作成したプロジェクトのフォルダに移動
cd porty new sample
#作成された内容を表示
ls
 ディレクトリ: C:¥porty_new_sample
Mode
           LastWriteTime
                          Length Name
       2023/03/12 22:11
                             porty new sample
       2023/03/12 22:11
                             tests
       2023/03/12 22:11
                           327 pyproject.toml
       2023/03/12 22:11
                            0 README.md
```

2-2. Poetry の利用(3)

Poetry プロジェクトには、専用の仮想環境が作成されるので、venv などの仮想環境ツールは必要ない

#仮想環境に入る

poetry shell

Creating virtualenv porty-new-sample-if_XtSRG-py3.9 in C:\U00e4Users\u00e4y-uchiida\u00e4AppData\u00e4Local\u00e4pypoetry\u00e4Cache\u00e4virtualenvs Spawning shell within C:\u00e4Users\u00e4y-uchiida\u00e4AppData\u00e4Local\u00e4pypoetry\u00e4Cache\u00e4virtualenvs\u00e4porty-new-sample-if_XtSRG-py3.9

実行後、ターミナルに仮想環境名が表示される (porty-new-sample-py3.9) (porty-new-sample-py3.9) PS C:\u224porty_new_sample>

出る時はexit (deactivate でもOK) exit

2-2. Poetry の利用 (4)

Poetry プロジェクトにパッケージを追加する場合は、poetry add コマンドを利用するこのコマンドでパッケージを追加すると、パッケージのバージョン管理を正確に行える

```
# Django 3.2 を追加
# poetry.lock ファイルに依存関係が追加される
# poetry add は、pip install と同じように使える
poetry add django==3.2
Updating dependencies
Resolving dependencies... (0.1s)
Writing lock file
Package operations: 4 installs, 0 updates, 0 removals
 • Installing asgiref (3.6.0)
 • Installing pytz (2022.7.1)
 • Installing sqlparse (0.4.3)

    Installing django (3.2)
```

2-2. Poetry の利用(5)

Poetry プロジェクトからパッケージを削除する場合は、poetry remove コマンドを利用するパッケージを削除すると、依存関係に基づいて不要なパッケージもまとめて削除される

Django パッケージをプロジェクトから削除する poetry remove django

Updating dependencies Resolving dependencies...

Writing lock file

Package operations: 0 installs, 0 updates, 4 removals

• Removing asgiref (3.6.0)
• Removing django (3.2)
• Removing pytz (2022.7.1)
• Removing sqlparse (0.4.3)

3-1. mypy の導入

mypy の公式ページの手順に従ってインストールを進めるを起動し、以下のコマンドを実行

mypy をインストール (Poetry で作成したプロジェクトの場合)
poetry add --group dev mypy
Using version ^1.1.1 for mypy

Updating dependencies
Resolving dependencies...

Writing lock file

Package operations: 4 installs, 0 updates, 0 removals

• Installing mypy-extensions (1.0.0)
• Installing tomli (2.0.1)
• Installing typing-extensions (4.5.0)
• Installing mypy (1.1.1)

3-2. mypy の利用(1)

型不整合を含むプログラムmypy_test.py を作成する

```
import datetime
# datetime 型に、String型の値を代入
var: datetime.datetime = "foo"
```

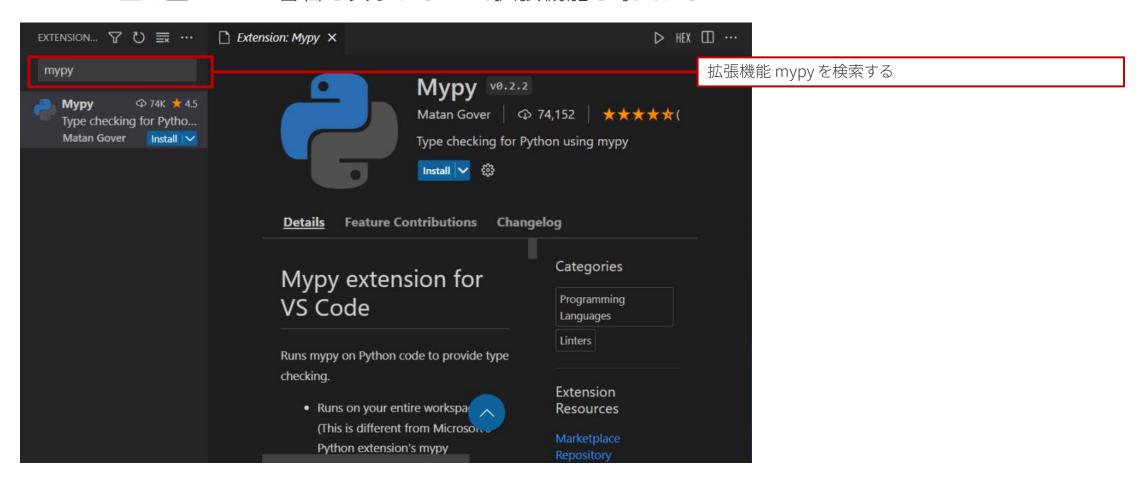
ターミナルから、mypy <検査対象のファイル> のコマンドを実行

```
# mypy_test.py を型チェックするコマンド
mypy mypy_test.py

mypy_test.py:4: error: Incompatible types in assignment (expression has type "str", variable has type "datetime") [assignment]
Found 1 error in 1 file (checked 1 source file)
```

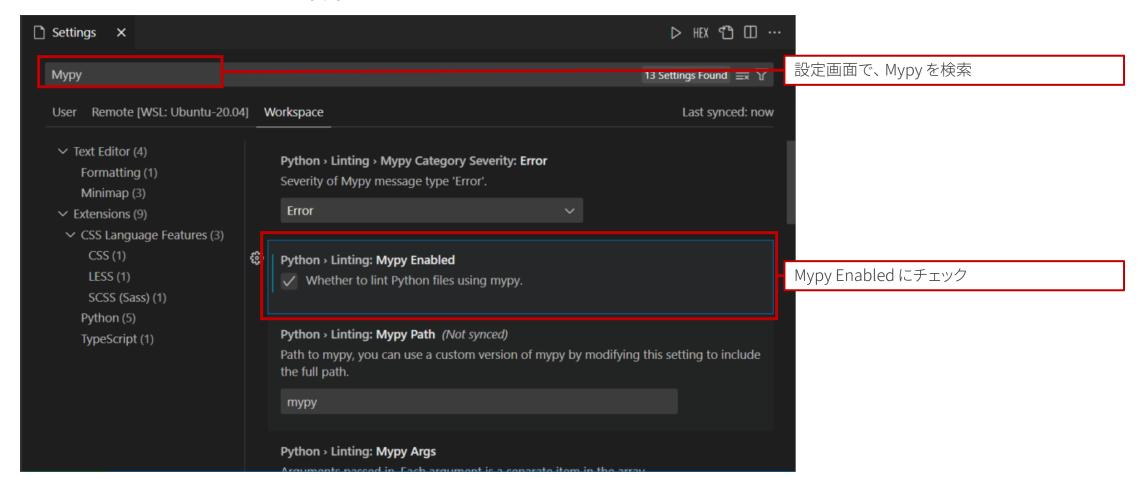
3-2. mypy の利用(2)

VSCode 上で型エラーの警告を表示するには、拡張機能を導入する



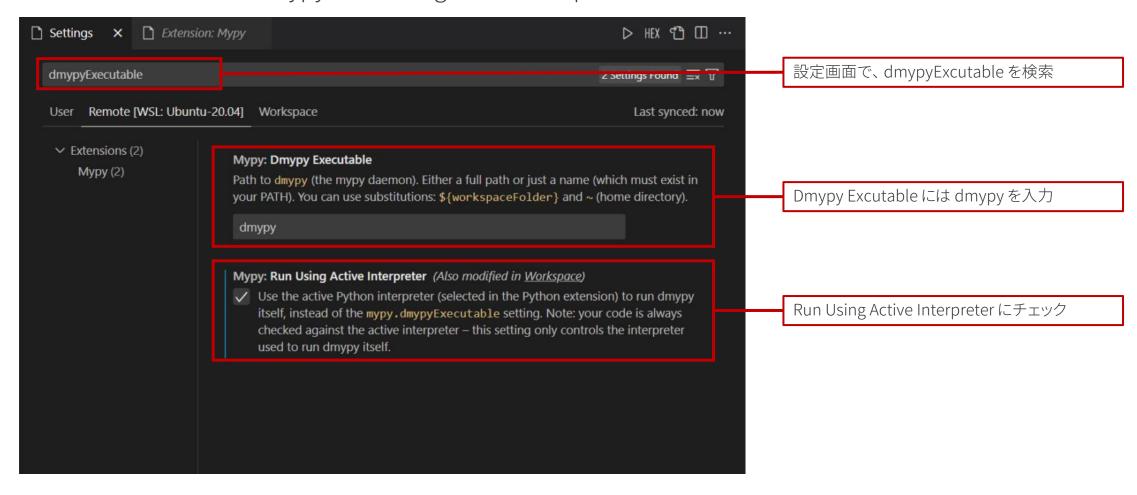
3-2. mypy の利用(3)

VSCode の設定画面から、Mypy を有効化する



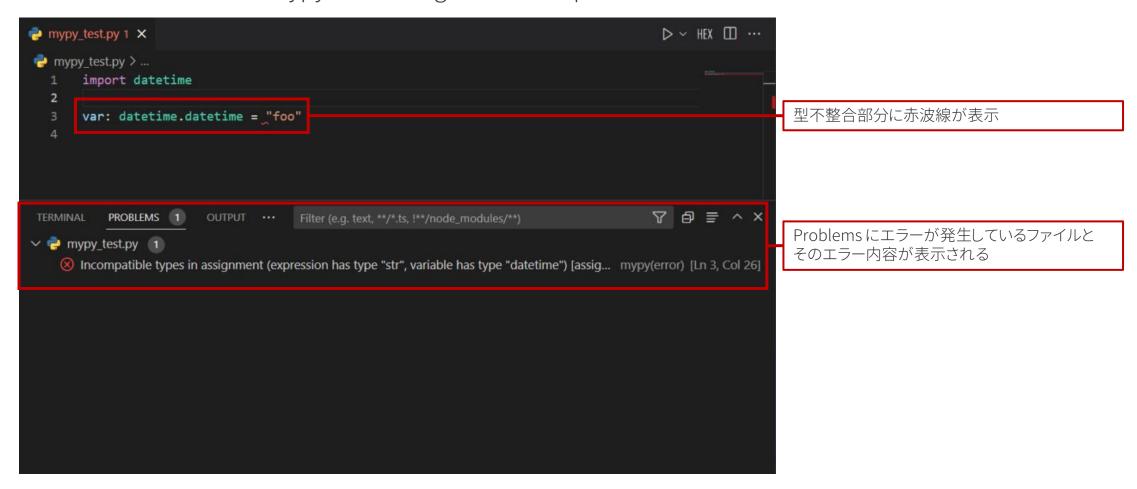
3-2. mypy の利用 (4)

VSCode の設定を開き、Mypy: Run Using Active Interpreter にチェックをつける



3-2. mypy の利用(5)

VSCode の設定を開き、Mypy: Run Using Active Interpreter にチェックをつける



4-1. Black の導入

Black の公式ページの手順に従ってインストールを進めるを起動し、以下のコマンドを実行

Black をインストール (Poetry で作成したプロジェクトの場合) poetry add --group dev black Updating dependencies Resolving dependencies... Writing lock file Package operations: 9 installs, 0 updates, 0 removals • Installing colorama (0.4.6) • Installing click (8.1.3) • Installing mypy-extensions (1.0.0) • Installing packaging (23.0) • Installing pathspec (0.11.0) • Installing platformdirs (3.1.1) • Installing tomli (2.0.1) • Installing typing-extensions (4.5.0) • Installing black (23.1.0)

4-2. Black の利用(1)

フォーマット違反を含むプログラムformat_test.py を作成する

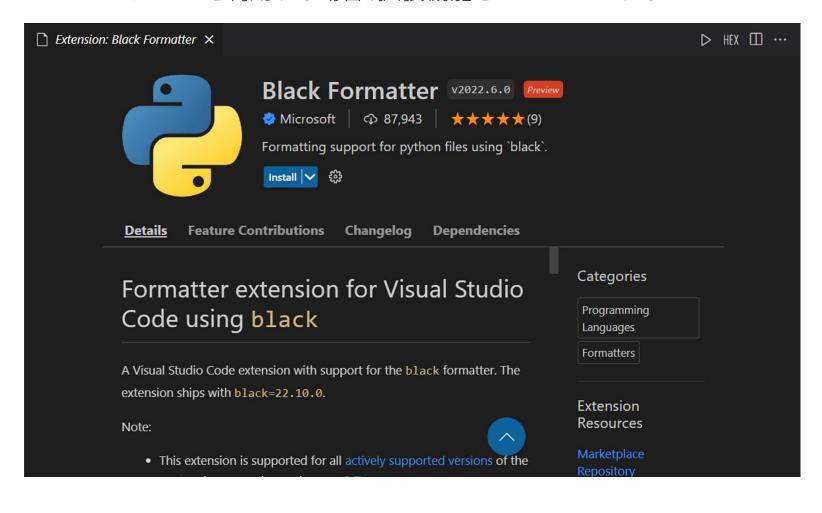
```
def main():
    print("this" + "is" + 'main')
    return 0
```

ターミナルから、black <検査対象のファイル> のコマンドを実行

```
# format_test.py を自動フォーマットするコマンド black format_test.py
All done! ** ** **
1 file left unchanged.
```

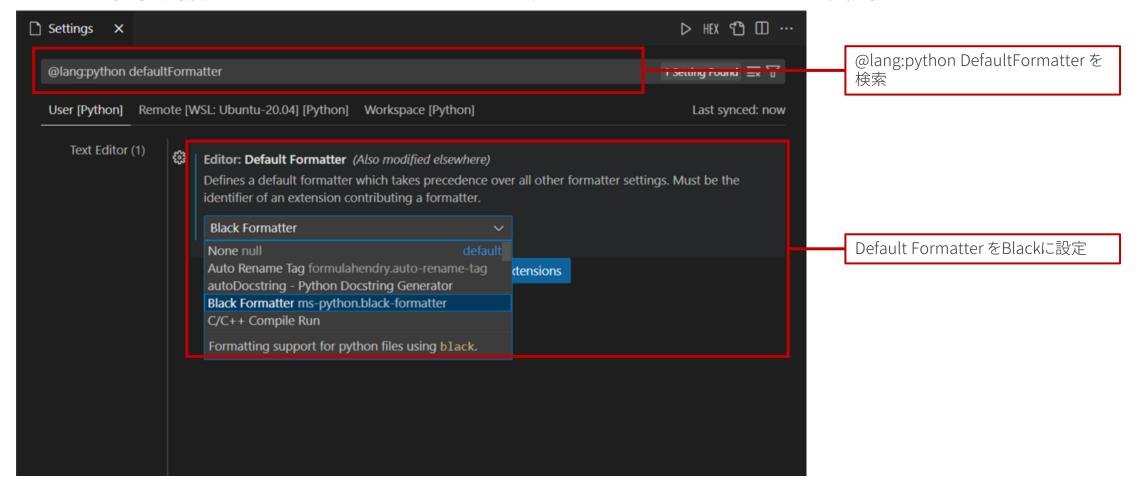
4-2. Black の利用(2)

VSCodeでBlack を利用する場合、拡張機能をインストールする



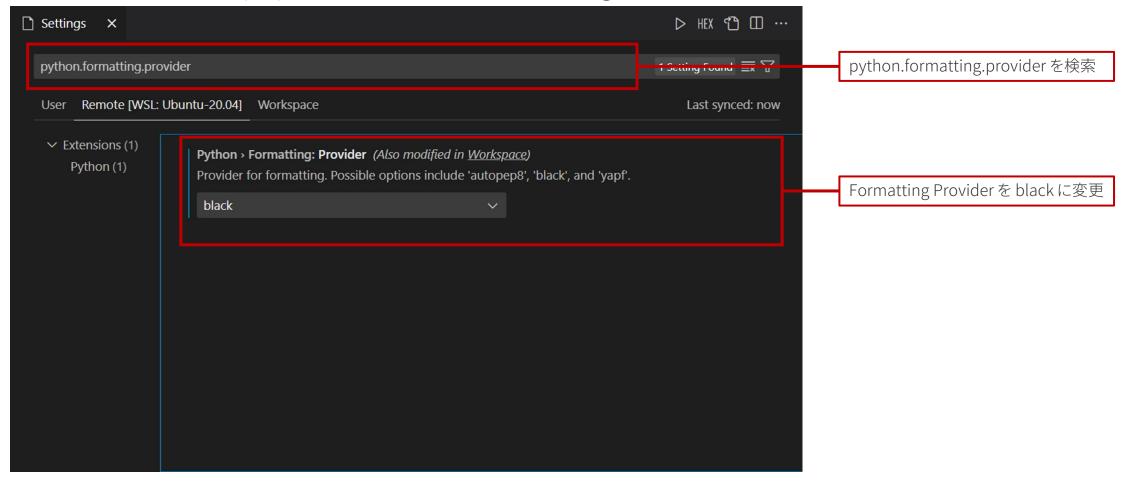
4-2. Black の利用 (3)

Black の拡張機能でフォーマットされるように、設定画面からdefault formatterを変更



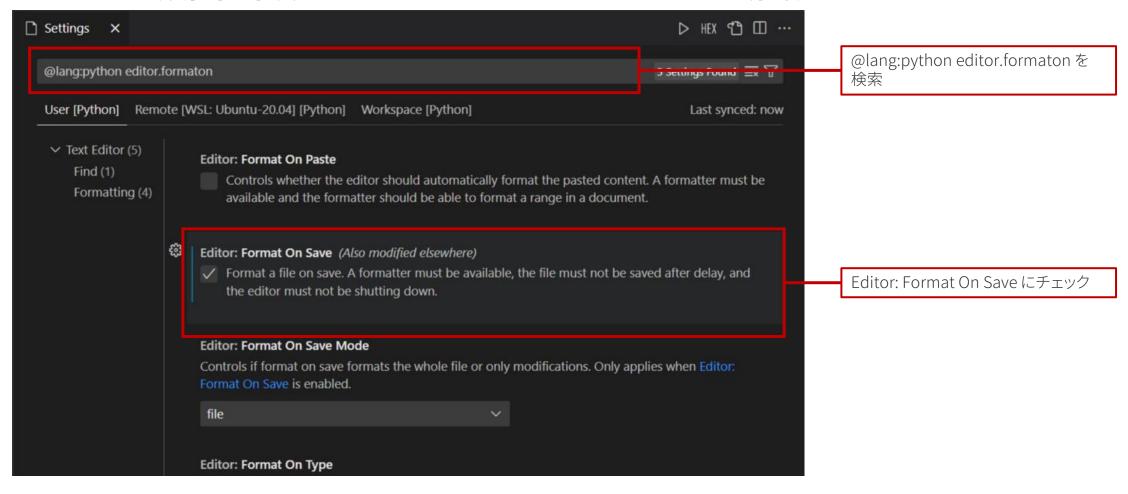
4-2. Black の利用 (4)

デフォルト設定がautopwp8になっているので、Formatting Provider をblackに変更



4-2. Black の利用 (5)

VSCode での保存時に字度フォーマットされるように、Format on Save を有効化



5-1. Flake8 の導入

Flake8 の公式ページの手順に従ってインストールを進めるを起動し、以下のコマンドを実行

Flake8 をインストール (Poetry で作成したプロジェクトの場合) poetry add --group dev Flake8 Using version ^6.0.0 for flake8

Updating dependencies Resolving dependencies...

Writing lock file

Package operations: 4 installs, 0 updates, 0 removals

- Installing mccabe (0.7.0)
- Installing pycodestyle (2.10.0)
- Installing pyflakes (3.0.1)
- Installing flake8 (6.0.0)

5-2. Flake8 の利用(1)

PEPのコーディングルール違反を含むプログラムflake8_test.py を作成する

```
if 1 is 1: # リテラルの比較に is は使わない
print("always true") # インデントはスペース4つにする
```

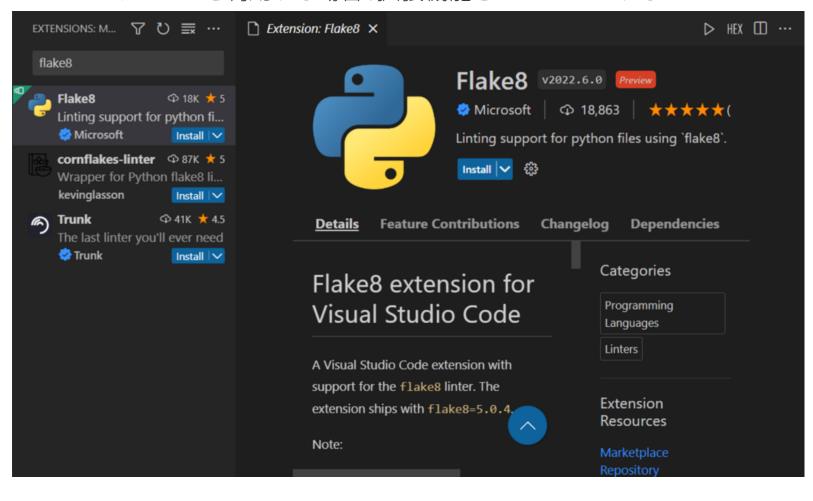
ターミナルから、flake8 <検査対象のファイル> のコマンドを実行

```
# flake8_test.py をチェックするコマンド
flake8_test.py

flake8_test.py:1:4: F632 use ==/!= to compare constant literals (str, bytes, int, float, tuple)
flake8_test.py:2:3: E111 indentation is not a multiple of 4
```

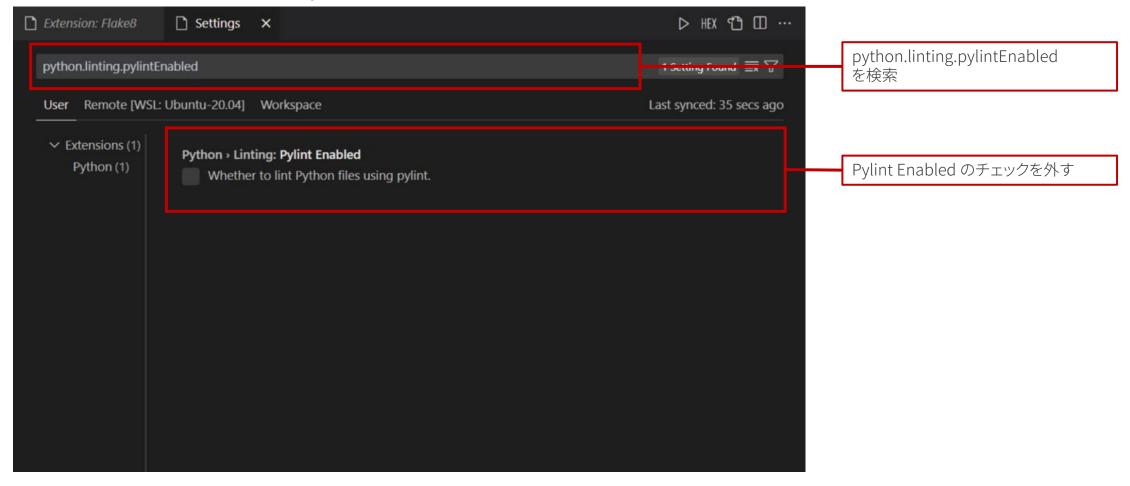
5-2. Flake8 の利用(2)

VSCodeでFlake8を利用する場合、拡張機能をインストールする



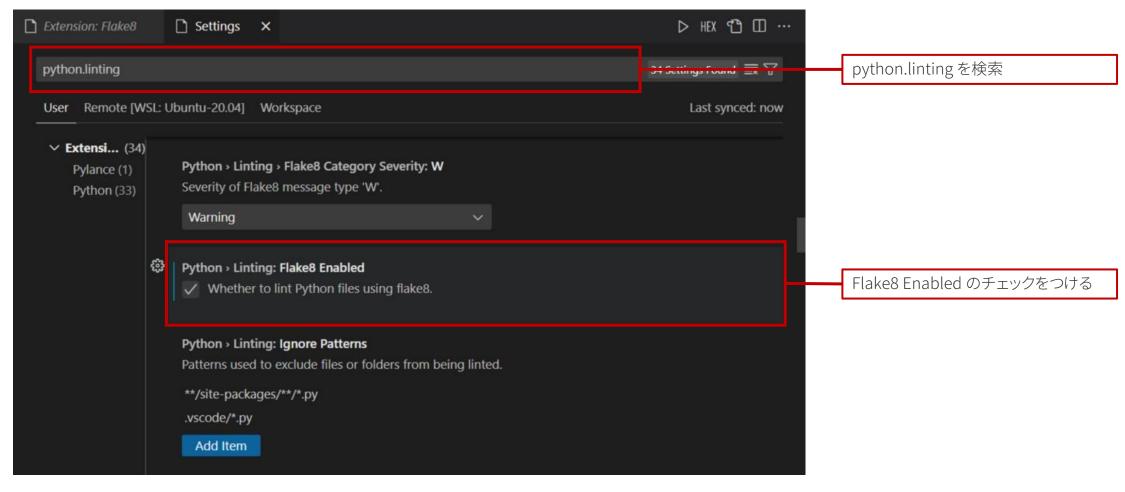
5-2. Flake8 の利用(3)

デフォルトのリンターとして、Pylint が有効になっているので、無効にしておく



5-2. Flake8 の利用 (4)

Flake8 の機能を有効化する



5-2. Flake8 の利用(5)

VSCode上で、コーディングスタイルに違反しているコードに警告が表示されることを確認



まとめ

- チーム開発や大規模開発では、メンバー間での分担や作業の長期化に伴って、バグや不具合が発生しや すくなる
- メンバーの意識や目視・手動での対応は困難なので、ツールを利用することが望ましい
- メンバー間の開発環境の差をなくす: pyenv, poetry
- 動的型付けのデメリットを解消する: mypy
- コードスタイルを統一する: Black
- コーディングルールを自動テスト: Flake8